

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04592

研究課題名（和文）小学校英語教育の文字指導における評価方法の開発

研究課題名（英文）Development of Evaluation Methods for Alphabet teaching in Elementary School English Language Education.

研究代表者

赤沢 真世（AKAZAWA, Masayo）

佛教大学・教育学部・准教授

研究者番号：60508430

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、小学校英語教育におけるアルファベットの文字指導において、子どもの学習過程を具体的に見取り、指導に生かすための評価方法の開発と検討を目的とした。アルファベットの理解や音韻認識（フォニックス）、スペリングの習得には、学力差・能力差が如実に現れ、丁寧な指導が求められる。そこで、子どもの言語発達を丁寧に評価するホール・ランゲージのつまずき分析や、リーディングリカバリーの理論と実践に依拠し、日本の小学校外国語活動・外国語科において、個々の子どもの言語発達としての文字学習の様子を丁寧にとらえ、かつ、系統的な指導・支援をするための評価の提案として、教材（小冊子）を作成、提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校外国語科・外国語活動におけるアルファベット指導から読み書きの指導は、音韻認識を高める指導（Phonics）については一定位置づいているものの、意味を求める読むことの指導の重要性や個々の子どもをどのように評価するのかについては議論が深まっていない。活動をするなかで個々の児童の実態が浮き彫りになる活動例や、意味を求めて読もうとする子どもを個々に評価する指針として提案した本研究の成果物（小冊子）は、学校現場で多くの時間がかけられない読み書きの指導と評価において具体的で簡易な指針となる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop and examine an evaluation method to specifically observe children's learning process and to apply it to instruction in the teaching of the letters of the alphabet in elementary school English education. As there is a large disparity in the ability in understanding the alphabet, phonemic awareness and phonics, and learning to spell the letters of the English alphabet, careful instruction is required. Therefore, based on the theory and practice of Miscue Analysis in Whole Language approach and Reading Recovery, which carefully assesses children's language development, this study was designed to evaluate the development of language development in children. The study materials (booklets) were prepared and proposed as systematical teaching and support in elementary school foreign language activities and foreign language studies in Japan.

研究分野：小学校外国語教育

キーワード：小学校外国語 文字指導 評価 フォニックス 音韻認識 教育課程

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2011年4月より小学校外国語活動が始まり、中学入門期英語教育とのカリキュラムや指導方法の連携が課題となっていた。2017年版学習指導要領において外国語科として高学年で教科化される状況のなかで、読み書きの指導が目玉されはじめていた。また、聞くこと・話すことの音声面が重視される外国語活動においても、読み書き活動につながる文字学習の必要性が叫ばれるようになった。とくに読み書きを指導する際に、どのように音韻認識を育て、フォニックス (phonics) とよばれる、「音素 (phoneme) とアルファベット (alphabet) の結びつきについての指導や、それらを読み書きの指導につなげていくかが重要な視点として認識されるようになったのである。

しかしながら、一方で、音声重視の活動では見えてこなかった児童間での能力差・学力差が見えるようになってきた。文字の認識からフォニックス指導までを見通して系統的かつ丁寧な指導が求められると同時に、テストといった量的なものさしで測るのではなく、個々の子どもの言語発達としての文字学習の様子を丁寧にとらえ、かつ、系統的な指導・支援をするための評価方法 (= 教材にもなる) の開発が求められていた。

2. 研究の目的

そこで本研究は、小学校外国語活動・外国語科におけるアルファベットの文字指導において、子どもの学習過程を具体的に見取り、指導に生かすための評価方法の開発と検討を目的とした。中学校での英語教育へのスムーズな接続を考慮するとき、アルファベットの理解や英語の音声と文字の関係への気付き (フォニックス)、スペリングの習得は、学力差・能力差が如実に現れる領域であり、丁寧な指導が求められるが、そうした評価方法は深められていない。そこで、英語圏でのアルファベット学習・指導における評価の議論や具体的な評価方法を参照しながら、日本の小学校外国語教育の文脈に即した、指導と評価の一体化を具体化させる文字指導の具体的な評価方法を開発していく。

3. 研究の方法

(1) 入門期英語教育における子どもの言語経験の蓄積・記録に基づく評価の理論的研究

入門期での文字指導の基礎となる「音韻認識能力」や基礎的なフォニックスの習得をどのように教師が見極め、評価しているのかについて、子ども一人ひとりの生活に根ざした言語学習を主張する、英語圏における理論と実践のアプローチである Whole Language (以下、WL とする) における評価について検討する。主に、子ども一人の読み書きを丁寧に評価し指導につなげる「つまずき分析 (Miscue Analysis)」の理論と実践) や、特別支援教育的視点を持つ理論と実践である「Reading Recovery」における言語発達記録 (Running Records) の議論を検討していく。さらに、こうした評価方法がどのように読み書きの評価、アセスメントにつながっているのかについて、アメリカにおける教科書会社作成の Reading Assessment (上記のつまずき分析を意識して作成されているが問題点も見られる) の内容を検討し、質の評価とハイスティクスなテストとの関連 (矛盾) も分析する。

(2) 小学校でのリサーチによる文字指導における評価の実態把握と評価方法の提案

低中学年から英語学習を始めている先進校、そして通常の公立小学校の双方において、文字指導の具体と評価のあり方の実態調査を行う。とくに文字指導や評価 (テスト) を抽出的に行うのではなく、英語を通した豊かな言語経験・言語活動の「過程」での評価を行う取り組みに注目する。また、2017年版学習指導要領における小学校外国語科の教科書および中学校教科書を分析し、読むこと・書くことの指導がどのように位置づけられているのかを分析する。

4. 研究成果

(1) 「つまずき分析 (Miscue Analysis)」の理論と実践) および「Reading Recovery」における言語発達記録 (Running Records) の議論

子どもを丁寧に捉えるためには、教師自身が読み書きの発達過程についての理論的枠組みをもち、分析的にそれを捉えていくことが必要である。その一つとして、グッドマンの研究に基づき、現場での評価ツールとして開発された「つまずき分析 (Miscue Analysis)」があげられる (Goodman, K. S., 1967)。具体的には、子どもと教師用に読み物のコピーを2組用意する (教師はダブルスペースのもの)。子どもが読んでいくのに即して、子どもの読みのつまずきや繰り返しの様子などをチェックしていく。

図1がその時の記録の例である。記号は子どもの発話の様子を表しており、R : Repetition (繰り返し) C : Correction (訂正) UC : Unsuccessful Correction (正解に至らなかった訂正) AC : Abandons Correction (正解していたのに最終的に不正解を選ぶ) などの様子が記

も、アルファベットの形と音を一致させる音韻認識や形を捉える空間認知、書くことに対する注意力が必要であり、これは外国語を書く際にも共通している部分として指導において留意すべき点である。

(4) 小学校外国語教科書における読むこと・書くことの支援の分析

読むことの支援（とくに音韻認識の指導について）

各社とも、各単元に割り振る形や、付録、コーナーの形式で、文字と音声の関係に気づきを得させ「音韻認識」を育成するための学習・活動が含まれている。子音のもつ「音」、母音の持つ「音」など、まずアルファベットの「名前」だけではなく「音」について意識を持たせることが丁寧に行われている。しかしながら、その系統性は各社によってバラバラである。「3文字単語」と呼ばれる「子音 母音 子音」の音声・文字の関係に気づかせることを中心としながらも、どのような系統性をもって、指導するのかが明確ではない。また、リスニングクイズ等の出題の並び順が必ずしも系統を示しているものではなく、指導する教師にとって、音韻認識から読むこと、書くことを位置付けるかについては、明確にその指導の系統性が伝わるものではない。

書くことの支援

書くことの支援では、4線（アルファベット文字を書き写す際の支援となる4本の線）の色（下から2線目が太い青線）や幅（2線目と3線目の間が他よりも太くなっている。教科書会社により、5:6:5、4:5:4の場合がある）が工夫されている。字体（フォント）がユニバーサルデザインフォントや、手書き体となり、bやdの部分が斜めに広がる形となっている。字体の形を場合わけするような活動がある。大文字と小文字の認識（大文字から小文字が発展してきたことや、2階建て、地下一階などと形に注目させる活動）が入っている。アルファベットの名前を言いながら、なぞる・書く活動がある。運筆・書き順の工夫（運筆、番号で書き順を書いている・アルファベットの横にイラストが描いてある）が共通してとらえられた。

(3)で明らかにしたように、特別支援教育の視点からも、文字の形の成り立ち、大文字から小文字への変化を自分たちで考える取り組み（たとえば畑江、2017）は、とくに抽象的な形であるアルファベットの形に意識を向けるために有効であり、一部の教科書にも取り入れられていた。ただし、こうした指導はそれぞれの教科書会社によって学習の順序が異なったり、扱いがなかったりするため、より系統的に示していく必要がある。

図2 小冊子における読むことをつまづき分析・解説

読み書きのステップ・評価記録

児童のどのような姿を観察し、評価するポイントにすればよいのかこうしたポイントを整理し、日々の授業での言葉が行きかかるとよいでしょう。

読むこと・書くことの詳細記録シート	
Name	check
(1)【アルファベットの音の認識】 ★は発展	
聞いて音の違いがわかる	
単語の初めの音が同じ語がわかる	
単語の終わりの音が同じ語がわかる (★)	
単語の間の音が同じ語がわかる (★)	
(2)【アルファベット文字と音の関係】 ★は発展	
①アルファベットの「名前」	
大文字	聞いてわかる 発音できる 書くことができる
小文字	聞いてわかる 発音できる 書くことができる
②アルファベットの「音」	
大文字	聞いてわかる 発音できる 書くことができる
小文字	聞いてわかる 発音できる 書くことができる
3文字単語が読める・書くことができる (★)	
3文字単語などで書かれた簡単な語を意味をたどって読むことができる (★)	
慣れ親しんだ単語を聞いて書くことができる (★)	
【英語の表記法】	
大文字と小文字を組み合わせることができる	
文字を4線目に正しく書ける	
自分の名前を書ける	
単語の間にスペースを入れて書ける	
クエスションマークやピリオドをつけて書ける	

図3 小冊子における読み書きのステップ・評価記録リスト

(5) 文字学習パンフレットの作成と指導者用ページの改訂

本研究では以上の(1)～(5)を踏まえ、アルファベットの読み書きから、読むこと・書くことへの興味関心を高める活動のなかで単語や文へと形成される仕組みを指導する教材を開発した(赤沢真世『小学校外国語読み書きのステップと評価』2022年発行)。

これまでの科研費成果物を土台として、とくに(1)(2)の視点から、アルファベット一つ一つが単語の音を形成するのを単に読み上げるだけではなく、「意味」を求めて読もうとしているのかを教師がチェックするためのページとその解説を作成した(図2)。また、(3)(4)の視点から、特別支援教育の視点を入れた留意点や活動の追加、フォントの吟味、運筆順の修正等を行った。さらに、冊子の活動を児童がどのように学習しているのかを教師が観察し、児童の読み書きのステップを記録するためのチェックリスト例も記載した(図3)。

さらに、「文」を読むことの実践、評価をどのように行っていくのかは学校現場ではいまだ手探りの状況ではあるが、本研究が示したように、フォニクス(phonics: アルファベットの文字と音声の関係についてのルール)をただ教え、単語を読み上げることだけを目的とするのではなく、「意味」を求めて読むことを励まし、かつ子ども一人ひとりの読み書きの実態を丁寧に把握する指導と評価が進められるとよい。

この冊子そのものが、活動において子どもの書き込みや実態を蓄積し、評価の証拠となるものとして位置づくと同時に、かつ教師の指導と評価の具体的な指針となるだろう。引き続き、作成した小冊子をもとに学校現場での研修および実践を行い、現場教師からのフィードバックを得て、さらなる改善点を見出したい。

引用文献

- ・ Goodman, K. S., "Analysis of oral reading miscues: Applied psycholinguistics", *Reading Research Quarterly*, Vol.5, No.1, 1967, pp.9-30.
- ・ Goodman, Y. "Kid-watching: An Alternative to Testing." *National Elementary Principal*, Vol.57, No.4, 1978.
- ・ Yetta Goodman, et.al, *Reading Miscue Invention*, 2005.
- ・ Timothy V. Rashinski and Nancy Padak, *3-Minute Reading Assessments: Word Recognition, Fluency & Comprehension*, Scholastic Inc., 2005.
- ・ 赤沢真世「小学校外国語教科書におけるパフォーマンス課題の検討と求められる評価の工夫」『佛教大学教育学部学会紀要』第20号、2021年、pp.11-26。
- ・ 赤沢真世『小学校外国語読み書きのステップと評価』(基盤研究(C))(基金)課題番号 17K04592「小学校英語教育の文字指導における評価方法の開発」(2017-2021年度成果物)2022年3月。
(<https://bukkyo-u-research.jp/assets/file/research/research22/research22-book03.pdf>)
- ・ 畑江美佳・段本みのり「小学校におけるアルファベット指導の再考 文字認知を高めるデジタル教材の開発と実践」『小学校英語教育学会誌』第17巻(1号) 2017年、pp.20-35。
- ・ 村井敏宏『読み書きが苦手な子どもへの<つまずき>支援ワーク』明治図書出版、2010年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 赤沢 真世	4. 巻 6月号
2. 論文標題 学習意欲を高める外国語科の授業づくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢 真世	4. 巻 6月号
2. 論文標題 小学校外国語教育における指導と評価の一体化のあり方を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢 真世	4. 巻 20
2. 論文標題 小学校外国語教科書におけるパフォーマンス課題の検討と求められる評価の工夫	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学教育学部学会紀要	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤沢 真世	4. 巻 5
2. 論文標題 小学校英語における個に応じた読みの指導につながる評価の可能性 つまづき分析 (Miscue Analysis) に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 249-258
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤沢 真世	4. 巻 2019年秋号
2. 論文標題 評価の考え方とその方法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育出版『ONE WORLD 小学校英語応援マガジンSmiles』	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢 真世	4. 巻 2019年11月号
2. 論文標題 I WNT TOW VST grandmaは間違い?子どもの創造的な学びを尊重し、指導に活かす	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大修館書店『英語教育』	6. 最初と最後の頁 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 第66巻第2号
2. 論文標題 主体的に学習に取り組む態度をどう評価するか 小学校外国語を例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 33 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 1
2. 論文標題 「求められる英語科の学力と授業実践の創造にむけて 今年度の取り組みの成果と、次の一歩」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『京都府教育委員会「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」平成30年度研究成果報告書』、京都府教育委員会	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2018年3月号
2. 論文標題 新しい評価の視点による授業づくり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 26 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2018年4月号
2. 論文標題 研究最前線 文字学習における子どもを丁寧にとる評価のあり方-Whole Language におけるMiscue Analysisに注目して-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 70 - 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 赤沢 真世
2. 発表標題 小学校外国語科におけるパフォーマンス評価と授業づくり
3. 学会等名 小学校外国語授業づくり研究会9月プレミアムセミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤沢 真世
2. 発表標題 ホール・ランゲージから考える小学校英語
3. 学会等名 第25回小学校英語教育学会京都支部 (KEET) 特別企画オンライン研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 "外国語科における評価について - 「学習評価についての在り方」中教審（報告） およびパフォーマンス評価の方向性 - "
3. 学会等名 日本児童英語教育学会関西支部春季研究大会（大阪成蹊大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 "子どもの言語経験を尊重する 読み書き指導のあり方 アメリカにおけるホール・ランゲージの議論から "
3. 学会等名 "日本児童英語教育学会全国大会第40回大会（東京家政大学）"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 "資質・能力を育成するための 教科等横断的な学び 小学校外国語活動・外国語の視点から "
3. 学会等名 "一般財団法人 教育調査研究所【調研セミナー第30回】（同志社大学）"
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 パフォーマンス評価の進め方ールーブリックの作成と活用に注目してー
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 関西支部春季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 全国英語教育研究団体連合会
3. 学会等名 奥村実践への指導助言：やりとりを入れたプレゼンテーション～ICT機器を活用し、英語で人と“つながる力”の育成～
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 全国英語教育研究団体連合会
3. 学会等名 Let's enjoy English!～子どもの思考がかきたてられる授業づくり～への指導助言
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 文字学習における子どもを丁寧にとる評価のあり方ーWhole Language におけるMiscue Analysisに注目してー
3. 学会等名 日本小学校英語教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 赤沢真世（編著）、田縁真弓、伊藤由紀子、俣野知里、大槻裕代、高橋友紀（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 小学校外国語科・外国語活動の授業づくり	

1. 著者名 田中耕治（編著）、赤沢早人、赤沢真世、石井英真、伊藤実歩子、遠藤貴広、奥村好美、川地亜弥子、岸本実、趙脚我、次橋英樹、鄭谷心、西岡加名恵、ほか10名（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 274
3. 書名 よくわかる教育評価（第3版）	

1. 著者名 田中耕治（編著） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 218
3. 書名 新3観点 通知表所見の書き方&文例集 中学年	

1. 著者名 田中耕治（編著） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 230
3. 書名 新3観点 通知表所見の書き方&文例集 高学年	

1. 著者名 泉恵美子・小泉仁・築道和明・大城賢・酒井英樹（編）、赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 170
3. 書名 すぐれた小学校英語授業 先行実践と理論から指導法を考える	

1. 著者名 石井英真・西岡加名恵・田中耕治（編） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 244
3. 書名 新・小学校 新指導要録改訂のポイント	

1. 著者名 田中耕治（編著） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 株式会社 ぎょうせい	5. 総ページ数 162
3. 書名 2019年改訂指導要録対応 シリーズ学びを変える新しい学習評価 理論・実践編2 各教科の学びと新しい学習評価	

1. 著者名 西岡加名恵・石井英真（編著） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 149
3. 書名 『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 「見方・考え方」をどう育てるか』	

1. 著者名 田中耕治（編著）、高見茂・田中耕治・矢野智司（監修） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 214
3. 書名 教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画	

1. 著者名 金森強・本田敏幸・泉恵美子（編著） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 212
3. 書名 主体的な学びをめざす小学校英語教育 教科化からの新しい展開	

1. 著者名 原 清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹（監修） 湯川笑子（編著） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 214
3. 書名 新しい教職教育講座 教科教育編10巻 外国語教育	

1. 著者名 田中耕治（編） 赤沢真世（分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 よくわかる教育課程（第2版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------